

寺 林 城 跡

中世に寺林の地を領有したのは伊予国い よのくに（現愛媛県）
の豪族・河野太郎通俊こう の みちとしの二男伊予守通重みちしげです。通重の
嫡男通次ちやくなんみちつぐは、一遍上人いっぺんしょうにんに帰依き えし、寺林に戻って弘安3
（1280）年じしゅう こうりん じに時宗の光林寺を開いたといひます。以
来、光林寺周辺は寺林城として要害普請ようがいぶしんされ、城館と
道場の二つの役目を果たしています。河野氏は、のち
に寺林氏を名乗ったと考えられ、天正の頃には、寺林
民部み ぶ、寺林将監しょうげん、寺林縫殿助ぬい の すけなどの名がみえます。

寺林城は、光林寺の境内を中心とする微高地にあり、
城の大手は現在の光林寺山門と考えられ、道路の両端
に幅2～3mの土塁ど るいが鍵の手に曲がっており、城の周
辺には外堀そと ぼりとして水堀みず ぼりが造られています。寺林城で
残っている遺構として最も見応えのあるのは、光林寺
の西側の林の中にある2重から ぼりの空堀と3重の土塁です。
寺の墓所から真っ直ぐに70mほど伸びて、ルンビニー
学園の手前で直角に曲がって50mほど先で消えてい
ます。そのほかにも、台地の縁辺部の所々に土塁等が
残っていますが、残りが良いとは言えません。寺林
城は、防御的ぼうぎよてきには多くの弱点がありますが、永享えいきょうの乱
では南部勢に真っ先に攻められ、天正18（1590）年てんしょうの
和賀・稗貫一揆わ が ひえぬき いっきでも、寺林城を守る浅野六兵衛ろくべ えが討ち
取られるなど、数々の戦乱の場となってきました。こ
の背景は、城の東側を通っていた中世街道の要地ちゅうせいかいどう よう ちに位
置していたためと考えられます。